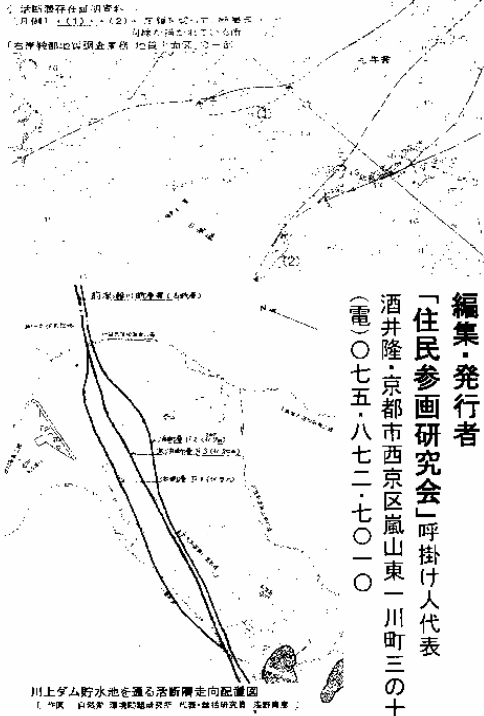


川上ダム・活断層帯が大災害を！



編集・発行者
 「住民参画研究会」呼掛け人代表
 酒井隆・京都市西京区嵐山東一川町三の十
 (電)〇七五・八七二・七〇一〇

* 第80回淀川水系流域委員会 *

宮本委員長：『実際、地質図で実線が入っていて、断層として、それが崖錘堆積物を切っていたら、これは第四紀断層とみなすのは当たり前ではないですか。…第四紀断層(活断層)というのは、すごい問題じゃないですか。そこを確認してませんか、今、この場で言われると、一体何なんだということになりますよ。』
 水資源機構関西支社 副支社長 水野：『正しく、今日説明できているというふうには、皆さんも認識されておりませんので、正しく説明できるようにさせていただきたいと思えます。』(議事録より抜粋。省略発言有り。)

大津波が起きる！

(※研究者に聞く)

自然愛・環境問題研究所 代表・総括
 研究員の浅野隆彦さんに、川上ダム貯水池に活断層が通っていると、どのような事が起きるのかを聞いてみました。
 『水圧が高くなり、岩盤の亀裂部分や破砕帯の深くまで水が浸透しやすくなるので、活断層は早く動きやすい状態になり、急激な変位があるので貯水池の水は大量に持ち上がり、いわゆる大津波が起こります。右岸鞍部を乗り越え、低部の桐ヶ丘住宅団地は激流に呑み込まれていき、またダムを乗り越え、下流の町にも大量の激流が津波状に押し寄せる事に成ります。夫々の流量は計算していません。その時の貯水位がどうか、断層変位の方向及び量を仮定し、試算する事は可能です。』